

65床増床し新築オープン、救急機能をより強化 地域に求められる医療体制の整備を目指す

取材●田川丈二郎

タイムスレポート



新たにオープンした高島平中央総合病院

東京都板橋区に本部を有し、東京、千葉、埼玉、群馬、神奈川、北海道、宮城、山形などに70カ所以上の医療・介護施設を展開するI MSグループ(中村哲也理事長)は12月1日、既存の高島平中央総合病院(東京都板橋区高島平1-73-1)を新築移転し、65床増床した230床の新病院としてオープンした。

1973年に開設した同院は、地域に根付いた病院として板橋区の救急医療の一翼を担ってきた。近隣には高齢化率が40%を超える高島平団地があり、近未来の少子高齢化社会の姿を示している。国が推し進める急性期医療と在宅医療の政策の中で、民間の中小規模病院が地域ニーズに応じていくべき、増床と機能強化を実

現した。

同院は、地上10階地下1階で、建築面積2370㎡、延床面積1万1628㎡、病床数230床。診療科は内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、腎臓内科、消化器内科、外科、消化器外科、肛門外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線診断科、リハビリテーション科の21科におよぶ。

同院は、地域に求められる医療体制を整備。特に救急専従医師・看護師を中心として、24時間365日体制で救急医療を提供する。また9階フロアに展望型のリハビリテーション室を設置。主として急性期と回復期前



最新の高度医療機器を導入し、各診療分野の専門医が精度の高い診断を行う(左・血管撮影装置、下・1.5 TMR1装置)



手術室の充実を図り急性期医療に対応

期のリハビリテーション機能を備え、運動器、脳血管疾患等、呼吸器各リハビリテーションを実施。摂食・嚥下訓練、言語聴覚療法などについても強化充実を図った。

さらに関節・脊椎センターを開設し、外傷疾患だけではなく、関節や脊椎などの変性疾患にも対応し24時間365日体制を整えた。国民の10人に1人が悩まされている腰痛については、都内でも数人しかできないPELD(経皮的内視鏡下椎間板摘出術)を行える医師が控える。競泳日本代表の帯同医師が診察をするスポーツ整形も力を入れている。

その他、25床の透析室を設置した血液浄化センター、脳卒中や脳腫瘍、外傷性疾患まであらゆる対応をする



80列マルチスライスCTスキャナ



病床も旧病院から65床増床した



竣工祝賀会であいさつをする中村哲也理事長



祝賀会では鏡割りも行われた

脳神経センターを設置し、内科領域の疾患に総合的に対応できるよう体制を整え、糖尿病・内分泌・代謝内科、腎臓内科なども設置した。

オープンに先駆け11月21日には竣工祝賀会を開き、地元の名士をはじめ多くの来賓が参加した。あいさつに立った中村理事長は、「新しい病院によって、さらに地域医療に貢献していきたい」と決意を述べた。